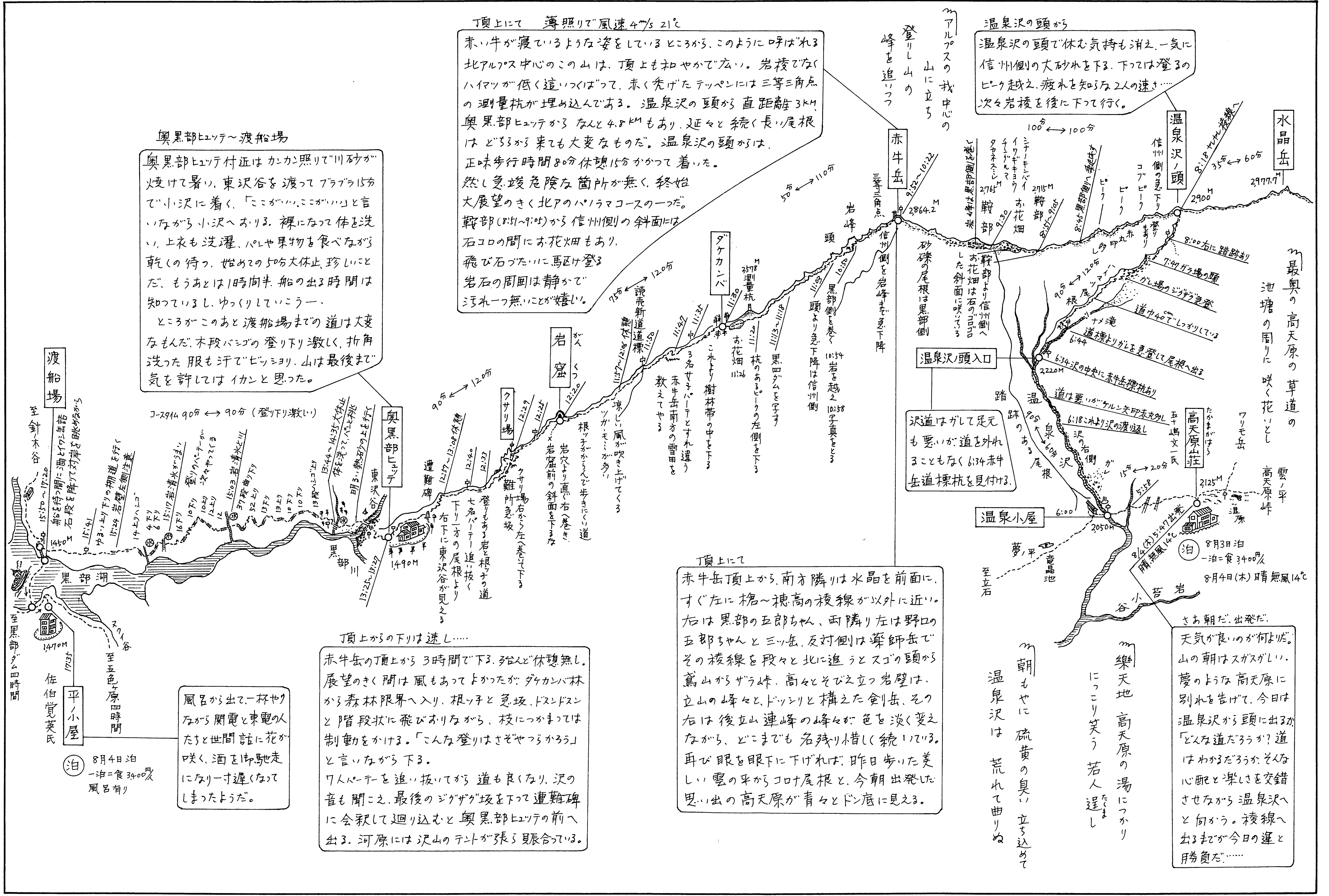
水晶岳
2977.7M
温泉沢ノ頭
2900M
8:18 ヤレヤレ稜線へ
35分 ←→ 60分
信州側の急下り
コブピーク
ピーク
ピーク
8:45 黒部側へ乗越す
100分 ←→ 100分
鞍部
2715M
8:51～9:05
シナノキンバイ
イワギキョウ
チングルマ
タカネスミレ
お花畑
鞍部
2765M
9:30
岩峰は黒部側を巻く
鞍部より信州側へお花畑は石のゴロゴロした斜面に咲いている
赤丸印多し
登りもあり
8:00 右に踏跡あり
7:47 ガラ場の頭
ガレ場のジグザグ急登
道巾40cmでしっかりしている
道標よりガレを急登して尾根へ出る
6:44
ナメ滝
根尾ツマイハ
90分 ←→ 120分
6:34 沢の中央に赤牛岳標杭あり
2220M
温泉沢ノ頭入口
道は悪いがケルン矢印赤丸多し
6:18 これより沢の渡り返し
踏跡のある尾根
温泉沢
90分 ←→ 60分
沢の右側
ガレ
15分 ←→ 20分
5:58
6:00
温泉小屋
2050M
高天原山荘
五十嶋文一氏
たかまがはら
2125M
ワリモ岳
雲ノ平
高天原峠
8/4(木) 5:47出発 晴無風14℃
泊
8月3日泊
一泊二食 3400円/人
8月4日(木) 晴 無風 14℃
夢ノ平
竜晶池
至立石
岩苔小谷
赤牛岳
2864.2M
三等三角点
9:52～10:22
50分 ←→ 110分
岩峰
頭
信州側を岩峰まで急下降
砂礫の尾根は黒部側
10:50
11:03
黒部側を巻く
頭より急下降は信州側
10:54 岩を越え 10:58 写真をとる
11:13～11:18
黒四ダムを写す
11:20
杭のあるピークの左側を下る
ダケカンバ
2578M 測量杭
11:30
お花畑 11:26
これより樹林帯の中を下る
11:35
11:47
3名女子パーテとすれ違う
赤牛岳南方の雪田を教えてやる
11:50
11:57～12:06 休憩
読売新道道標
75分 ←→ 120分
涼しい風が吹き上げてくる
ツガ・モミが多い
根ッ子がからんで歩きにくい道
岩窟（がんくつ）
12:20
岩穴より直ぐ右へ巻き、×岩窟前の斜面を下るな
12:25
12:29
クサリ場
クサリ場右から左へ巻いて下る
難所急坂
12:33
12:40
12:57～13:08 休憩
90分 ←→ 120分
遭難碑
登りもある岩と根ッ子の道
七名パーテー追い抜く
下り一方の尾根より右下に東沢谷が見える
奥黒部ヒュッテ
1490M
13:25～13:27
東沢谷
明るい熱砂の上を行く
13:44～14:35 大休止 体を洗ってパンと桃
13段ハシゴ上り
10下り
10下り
13上り
13下り
52上り
37段曲り下り
15:03 岩清水とり
12
12上り
10上り
10下り
登りのパーテーが次々やってくる
15:17 岩清水がうまい
16下り
6下り
4下り
14上りハシゴ
15:24 岩壁左側注意
やさしい上り下りの棚道を行く
15:41
黒部川
黒部湖
コースタイム 90分 ←→ 90分（登り下り激しい）
渡船場
1450M
15:50～17:20 船を待つ間に酒とイワシ缶詰石段を降りて対岸を眺めながら
至針ノ木谷
至黒部ダム四時間
1470M
17:35
ヌクイ谷
至五色ヶ原四時間
平ノ小屋
佐伯覚英氏
泊
8月4日泊
一泊二食 3400円/人
風呂有り

頂上にて　薄照りで風速4m/s 21℃

赤い牛が寝ているような姿をしているところから、このように呼ばれる北アルプス中心のこの山は、頂上も和やかで広い。岩稜でなくハイマツが低く這いつくばって、赤く禿げたテッペンには三等三角点の測量杭が埋め込んである。温泉沢の頭から直距離3KM、奥黒部ヒュッテからなんと4.8KMもあり、延々と続く長い尾根はどちらから来ても大変なものだ。温泉沢の頭からは、正味歩行時間80分休憩15分かかって着いた。
然し急峻危険な箇所が無く、終始大展望のきく北アのパノラマコースの一つだ。
鞍部（8:51～9:05）から信州側の斜面には石コロの間にお花畑もあり、
飛び石づたいに馳け登る
岩石の周囲は静かで
汚れ一つ無いことが嬉しい。

アルプスの我中心の山に立ち
登りし山の峰を追いつつ

温泉沢の頭から

温泉沢の頭で休む気持も消え、一気に信州側の大砂れを下る。下っては登るのピーク越え、疲れを知らない2人の速さ……次々岩稜を後に下って行く。

奥黒部ヒュッテ～渡船場

奥黒部ヒュッテ付近はカンカン照りで川砂が焼けて暑い。東沢谷を渡ってブラブラ15分で小沢に着く。「ここがいい、ここがいい」と言いながら小沢へおりる。裸になって体を洗い、上衣も洗濯、パンや果物を食べながら乾くの待つ。始めての50分大休止、珍しいことだ、もうあとは1時間半。船の出る時間は知っているし、ゆっくりしていこう――、

ところがこのあと渡船場までの道は大変なもんだ、木段バシゴの登り下り激しく、折角洗った服も汗でビッショリ、山は最後まで気を許してはイカンと思った。

最奥の高天原の草道の
池塘の周りに咲く花いとし

沢道はガレて足元も悪いが、道を外れることもなく6:34赤牛岳道標杭を見付ける。

頂上からの下りは速し……

赤牛岳の頂上から3時間で下る。殆んど休憩無し。展望のきく間は風もあってよかったが、ダケカンバ林から森林限界へ入り、根ッ子と急坂、ドスンドスンと階段状に飛びおりながら、枝につかまっては制動をかける。「こんな登りはさぞやつらかろう」と言いながら下る。
7人パーテーを追い抜いてから道も良くなり、沢の音も聞こえ、最後のジグザグ坂を下って遭難碑に会釈して廻り込むと奥黒部ヒュッテの前へ出る。河原には沢山のテントが張られ賑合っている。

頂上にて

赤牛岳頂上から、南方隣りは水晶を前面に、すぐ左に槍～穂高の稜線が以外に近い。右は黒部の五郎ちゃん、両隣り左は野口の五郎ちゃんと三ッ岳、反対側は薬師岳でその稜線を段々と北に追うとスゴの頭から鳶山からザラ峠、高々とそびえ立つ岩壁は、立山の峰々と、ドッシリと構えた剣岳、その右は後立山連峰の峰々が色を淡く変えながら、どこまでも名残り惜しく続いている。再び眼を眼下に下げれば、昨日歩いた美しい雲の平からコロナ尾根と、今朝出発した思い出の高天原が青々とドン底に見える。

楽天地 高天原の湯につかり
にっこり笑う 若人逞し（たくま）

朝もやに硫黄の臭い立ち込めて
温泉沢は荒れて曲りぬ

さあ朝だ、出発だ、

天気が良いのが何よりだ。山の朝はスガスガしい。夢のような高天原に別れを告げて、今日は温泉沢から頭に出るが、「どんな道だろうか？道はわかるだろうか、そんな心配と楽しさを交錯させながら温泉沢へと向かう。稜線へ出るまでが今日の運と勝負だ……

風呂から出て、一杯やりながら関電と東電の人たちと世間話に花が咲く、酒を御馳走になり一寸遅くなってしまったようだ。

奥村之信